



ブリヤート共和国の草原で、ロシア人牧者へ伝道するパーヴェル伝道師



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

主の手は短くありません

主はモーセに答えられた。「この主の手が短いというのか。わたしのことばが実現するかどうかは、今に分かる。」
民数記11:23

指導者は孤独です。自分の重い責任と自分の限界を感じる場合があります。自分の限界のゆえに、嘆くこともあります。とくに今の世の中、コロナ禍で通常ではない状況下で、厳しい立場に置かれている指導者は少なくないでしょう。聖書を開きますと、私たちはイスラエルの民をリードした指導者モーセから学ぶことができます。

1. モーセの嘆き

イスラエルの民は、「彼らのうちに混じって来ていた者たちは激しい欲望にかられ、イスラエルの子らは再び大声で泣いて、言った。「ああ、肉が食べたい(民数記11:4)、と言いました。モーセは荒野で魚、きゅうり、すいか、にら、んにくなどをエジプトのように提供できませんでした。民は「だが今や、私たちの喉はからからだ。全く何もなく、ただ、このマナを見るだけだ。」(民数記11:6)と不満をモーセにぶつけました。モーセは民のつぶやきがあまりにも大きいので、自分1人では手に負えず、いっそのこと自分を殺していただきとまで神に訴えました(民数記11:15)。これを聞かれた神は経験と資質を備えた70人の指導者を立て、彼らにも神の霊を注ぎ、モーセとともに

にイスラエルを導かれました。神はモーセの嘆きに耳を傾けてくださいました。

2. 神のことば

神は不平を鳴らす民に肉を与え、みなが飽きるほど食べさせると言われました。「あなたがたが食べるのは、ほんの一日や二日や五日や十日や二十日ではなく、一か月もであって、ついには、あなたがたの鼻から出て来て、吐き気をもよおすほどになる。」(11:19、20)モーセはそのようなことは不可能であると懐疑的な反応を示しましたが、神は「この主の手が短いというのか。わたしのことばが実現するかどうかは、今に分かる。」(11:23)と言われました。確かに神は全能の力を証明されました。

神は立てられた者の苦しみを傍観されることなく、御力を確認してくださいました。何が問題であったのでしょうか。民の不満、つぶやき、不信仰でした。モーセでさえ非現実的な状況で弱くなってしまいました。それが私たち人間の姿です。しかし、神はその弱者の側に立ってくださるお方です。主の手は短くありません。私たちはそのみことばを信じて歩み続けようではありませんか。

コロナ禍の海外邦人宣教 12

コロナ禍における英国での邦人宣教

ロンドンJCF代表役員
馬場 信裕・晶子

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。」イザヤ書55:8



ロンドン・タワー

英国のコロナ・パンデミック

コロナは一年経った今も変異を続けながら、世界中で猛威を振っています。英国では昨年3月16日からロックダウンが始まり、一年以上行動規制がかけられていましたが、ようやく今年7月19日これまでの法的な規制が解除され、待ち焦がれた解放の日(Freedom Day)が訪れました。その日を境に社会が開かれ、マスク着用義務がなくなりましたが、あまりの急激な変化に疑問を投げかける国民も多いのが現状です。

国民の8割がワクチンの2回接種を終了したからでしょうか、コロナ関連が大きなニュースとして取り上げられることが少なくなっています。しかし、この原稿を書いている現在(9月半ば)、1日の感染者数は3~4万人と急増しています。教会も礼拝を再開していますが、未だに予約制をとっているところ、礼拝の会衆賛美や交わりは控えているところが多いようです。

ロンドンJCF

さて、私たちロンドンJCFは昨年3月15日の礼拝を最後に前任者の牧師が帰国し、同時にロックダウンとなり、教会は閉鎖されました。そんな中礼拝だけは休んではならないという強い思いが与えられ、協力をお願いするとヨーロッパ内外の先生が即座に助けの手を差し伸べてくださいました。動画や、ライブ礼拝への参加、送られてくる礼拝原稿を教会員の兄弟に送り、最初の数か月を過ごしました。現在日本から協力牧師が与えられ、今年1月からは毎週欠かさず礼拝を捧げています。また、祈禱会や聖書集会、加えて新しくフェローシップ(交わり)をイギリスら

しく「恵みのアフタヌーンティー」という名称で、自粛中の家庭内にあって孤独になりがちな婦人達を対象に始めました。コロナの影響で活動は全てzoomとなりましたが、熱心に主を求める人たちが起こされ以前に増して(毎回40名前後)、英国内だけでなく、ヨーロッパ在住者、帰国したJCFのOBが多数レギュラーで参加されるようになりました。その中には信仰に導かれている方々もおられます。ようやく9月12日JCFハウスに6名が集まり、試験的にzoom礼拝に参加しました。説教者や他の参加者とは距離を感じることなく、御霊のご臨在を感じる感動の礼拝、聖餐式となりました。この結果を踏まえて懇談会を持ち今後のJCF礼拝の在り方を話し合うことになっています。



Zoomによる礼拝

今後の課題としては、牧会者がリモートであるために個人的な関わりを持つことが難しいことですが、メールやラインなど、時にはzoomを使用して個人的な対話を大切にしています。行動規制範囲が広がってからは、私たちがロンドン市内に住む気になる方を訪問するようにしています。ロックダウンの後遺症なのか人に会うことを恐れる方もおられ、コロナベビー、トドラー(幼児)という新語にみられるように、個人的なかかわりに困難を覚える人たちも増えています。

また、zoomの使用法が理解できない方もおり、そのような方たちにはアナログ的な方法も残し原稿や動画を送っています。彼らが不安の中に取り残されないように、信仰が後退しないようケアを続けることが大切です。

今後のロンドンJCF

一方でコロナ禍によって霊的に高められ、聖書の学びを通して自立した方々も少なくありません。彼らは持ち場において熱心に福音を伝えています。教会としては専従の牧会者が一日も早く与えられることを願っております。牧師招聘は焦らず、神様の時を待ちたいと思います。幸いJCFハウスという立派な牧師館が与えられており、そこを拠点に礼拝や集会が継続できることは神様の大きな恵みです。今のロンドンJCFは、国際結婚により地元教会に所属しながら日本語礼拝に参加するという二重教会生活を送っている方も多く、毎週ロンドン中心部の教会に足を運べる人は多くありません。住まいも英国全域にわたり、高齢に伴い移動が自由にならない方も増えることでしょう。いつでも、どこでも参加できるオンライン礼拝、集会は残しておくべきだと考えています。

教会はこうあるべきであるという概念がコロナによって崩された今、できることを感謝し、実行していくことはとても新鮮なチャレンジです。模索する中でコロナ後の新しい教会の姿が見えてくるのではないのでしょうか。この世を続べ治められる全能者なる主に信頼し、期待しています。(つづく)



ロンドンJCFハウス

伝道、プレゼントにもおすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ
「讚美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

第1巻～第8巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讚美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

中綴りB6サイズ ¥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、わがたましいは歌う

主幹 黒田 禎一郎

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

162

クリミア共和国
黒田 禎一郎

クリミア共和国

ユーラシア大陸にあるクリミア半島は、日本列島と比較すると四国より大きく九州より小さい面積です。歴史は非常に古く紀元前5世紀にまでさかのぼります。土地は肥沃で農産物、海塩、鉄鉱石等に恵まれ、陸上および海中の両方にガス田もあります。ガス田はウクライナのパイプラインに接続され、西側の石油・ガス会社によって開発されました。2014年のウクライナ国民調査によれば、人口235万3千100人でロシア人が58.5%、ウクライナ人24%、クリミア・タタール人10.2%、そしてドイツ人、ユダヤ人等がいました。宗教的には正教とイスラム教支配が繰り返され、戦いが続いてきました。

近年では2014年、ロシアによるクリミア半島の突然の併合宣言がありました。それに対してウクライナはじめ国際社会、ヨーロッパ連合等は併合を認めない態度をとり、政治的緊張状態が現在も続いています。しかし100年以上前から、キリストの福音派の教会は建てられ、キリストの福音が語り伝えられてきました。最近では政治的緊張が続く中、そしてコロナ禍で全島ロックダウンにもかかわらず、キリストの福音は大胆に宣べ伝えられています。ここに現地のイゴール伝道師から、最近のクリミア半島でのキリスト教会を紹介してもらいます。

クリミア半島のキリスト教会

バヒスチャラヤ市に教会が建てられたのは、1910年でした。教会はバプテスト派とモロカナ派で、迫害と混乱の中にあってもキリストの福音を宣べ伝えてきました。とくに共産主義時代はキリスト信仰と宣教が禁じられましたが、神は先輩聖徒たちを守り数多くのみわざをなされました。神がお許しくださるならば、今秋に宣教111周年記念礼拝を持つ予定です。

す。宣教と聖徒たちの交わりの中心である会堂は、111年の歴史を経てすでに老朽化しました。壁のひび割れ、天井からの雨漏り、それに床も腐り不安定となりました。会堂は旧市街にあり小さく来会者でいっぱいでした。夏場は中庭にも人が立ち、集会を進めてきました。

このような状況下で、私たちは大きな会堂を必要としていたところ、神はその必要をよくご存知でした。ドイツの主にある聖徒たちの心を動かしてください、会堂建設への道を開いてくださいました。主の導きであれば、今夏には会堂建設を終了させ、秋には宣教111周年記念礼拝を新会堂で持つ予定です。そして共産主義時代でも倒れることがなかった信仰を、町中の人々に宣べ伝えたいと祈っています。



イゴール伝道師家族

弱者への働きが祝福へ

20年前に、私たち夫婦に長男が生まれましたが、生まれながら重い障害を持っていました。このことは私たち夫婦にとって、また教会奉仕にとって大きな変化をもたらしました。障害児を抱える親として、私たちはハンディーがある方々と、その両親と親密な交わりを持つようになりました。それによって私たちの奉仕活動は社会の弱者に向かい、彼らに人道上の支援をし、生ける神を宣べ伝えるように導かれました。そして多くの障害者とその家族が心を開いてくださり、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れるようになりました。

神は障害者への働きを通して、霊的な実を結ばせてくださいました。今年に入りエルミラとグルナナラがキリストへの信仰を告白し、まもなく洗礼をうける予定です。エルミラは2014年以来、私たちが知っている婦人です。彼女の子どもも障害児で、身障者キャンプに参加しまし



エルミラの家

た。彼女自身は夫を失った未亡人で、一人で3人の子どもを育てています。それに次男は小児麻痺を患っています。しかし、自力歩行は可能です。その彼女が初めて福音を聞いたのは、身障者キャンプの小グループでの交わりの時でした。その時、ボランティア・ヘルパーが次男の面倒を見ていましたので、エルミラにとってキャンプは単に物理的解放だけでなく、精神的休息の時でした。彼女は真理について真剣に尋ね求めてきました。夕方には、賛美があり聖書からメッセージが語られました、それは彼女の心に蒔かれたはじめの種でした。

キャンプ終了後も、彼女は3人の子育てと仕事をしながら、できるかぎり集会に参加するようになりました。それは本当に大変なことでしたので、私たちも彼女をできるかぎり助け集会に誘いました。そして彼女はキリストを救い主と信じ救われました。彼女の家は老朽化し修理が必要でしたので、教会の兄弟たちは無償で協力し改装工事を行いました。エルミラの親族はムスリムでクリミア人ですが、彼らに非常に幸いな証しとなりました。隣人愛の実践は言葉を超えた伝道となりました。「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」(マタイ5:16)このようにクリミア半島での伝道は、政治的緊張がつづき混迷の中にありますが前進しています。お祈りください。(つづく)



イゴール伝道師と身障者たち

神の証人となった家族(中編)

家族の新たな一歩

北朝鮮が最も食糧難であった1996年の春、クオンヌンは生まれ、祖父母と両親、2人の姉に囲まれて育ちました。貧しく、いつも飢えに苦しむ家庭でありながら、クオンヌンはたくましく、心優しい少年となりました。かつて北朝鮮の政府高官であった祖父は、反動分子としての烙印を押されました。それゆえ人目を避けるかのように、中国国境の山奥で暮らすようになりました。また、祖父の娘であるクオンヌンの叔母は、夫の祖父が牧師であったという理由で、幼い子どもたちと一緒に、政治犯収容所に収監されました。伯父夫婦も中国との貿易の仕事で、聖書に触れたという理由だけで処刑されました。北朝鮮国家は国民から生きる糧や自由を奪うだけでなく、大切な人々も容赦無く奪っていきました。

そんな一家を絶望から希望へと変え、彼らに生きる力を与えたのは、かすかに聴こえるラジオの声でした。海外から流れる福音ラジオ放送は、耳をすませて聴く彼らにとって国家による洗脳を解き、自由と夢を与え、イエス・キリストの良き知らせを教えるものでした。父は未来ある子どもたちのために、一家で亡命しようと綿密な計画を立てていました。やがて衰弱し切った祖父母が相次いで亡くなりましたが、祖母は密かにキリスト教を信仰していました。祖父母を見送り、残された家族は、木々に覆い尽くされた森の中で人知れず、新たな一歩を踏み出そうとしていました。

「さよなら」さえ言えない

2008年10月、クオンヌンが12才の秋、大量餓死は次第に深刻さを増し、国内の全てが麻痺し、学校もしばしば閉鎖されました。クオンヌンは学校へ行く日より、山羊と過ごす時間の方が多くなりました。山羊に草を最大限に食べさせてこそ、その日家族全員が山羊の乳にありつけました。昼間は山羊を放牧しながら、砂の上で漢字の勉強をし、夜は月明かりの下で、友

だちと思いきり走り回り遊びました。友だちは学校へ行けない寂しさや、お腹が空いていたことさえ忘れさせてくれる存在でした。大好きな友だちとの別れもすぐそこに迫り、もう彼らとは二度と会えないことが、クオンヌンには受け入れ難いことでした。それは、後々の過酷な旅路よりも、いつまでも続き、悲しい辛い痛みです。

父はとうとう長い準備を経て、豆満江を渡り、祖国を後にしました。家族全員での脱北は、より危険が伴い、見つければ一家全員が公開処刑となります。父は自分が家族のために道筋を作っておき、後から来る妻や子どもたちを先導できるようにと、自らが先駆けとなりました。家族を残し、たった一人での生命がけの旅は、決して平坦ではなく、その旅路は血と涙で滲んだ道でありました。父がようやく大韓民国へ入国し、次はいよいよ母と姉(次女)、そして、クオンヌンが北朝鮮を離れる時となりました。クオンヌンはずっと仲良しだった友だちに、ありがとうも、さよならさえも言うことができず、彼らの前から黙って姿を消すこととなりました。

太陽は雲の上に

まだ明るい陽の光がさす昼下がり、母と姉、クオンヌンの3人は、豆満江の国境沿線を目指して、4時間以上歩き続けなければなりません。ところが、豆満江の国境沿線には監視警戒所を数ヶ所通過しなければならず、通行証が必要でしたが、彼らは通行証を持ってはいませんでした。だんだんと監視警戒所が近くにつれ、3人は不安と恐怖で身震いしました。ところが、先ほどまで雲ひとつ無い青空に、彼ら3人が警戒所に近づいた途端、神様は大雨を降らせました。大雨は降っているのに、太陽はその雨雲の上に燦々と輝き続けています。監視警戒所の軍人たちは突然の大雨に驚き、監視業務の傍ら農作業をしている軍人たちは、収穫したばかりの大豆の束を濡らさないように大慌てでした。その間にクオンヌンたちは、すばやく監視警戒所を通り過ぎることができました。結局、3ヶ所通らなければならなかった全ての監視警戒所に、同

じ奇跡が繰り返されました。通行証一つ持たなかった彼らに、神様は力強い味方でいて下さいました。それは、どんなに厚い雲が空を覆っても、太陽は決して失くならないように、この先、どのような試練の雲がこの一家を覆っても、父なる神様は決して彼らから離れず、必ず共にいて下さることを暗示しているかのようでした。

神の御腕が動くとき

3人は案内人であるブローカーと落ち合い、無事に豆満江付近に到着しました。明るかった陽はすっかり沈み、あたりは暗闇で静まり返っていました。韓国から父は、3人のために仲介者を通して現地ブローカーを雇い、この時までは妻子たちの状況を把握することができていました。ところが、いざ彼らが豆満江を渡るうとした時、連絡を待っていた父に仲介者からの連絡が突然、途絶えてしまいました。その仲介者が自分の要求が通らないことを不服とし、ブローカーとの全ての連絡を断ってしまいました。父は慌てふためき、何もできない絶望の中で、韓国で通っている教会に連絡し、自分と連携している宣教師たちにもこの事実を知らせ、助けを求めました。韓国だけでなく、世界にいる多くの聖徒たちが3人のために心合わせて祈ってくれていました。生命の連絡網が途絶えても、とにかく3人は豆満江を渡ることになりました。冬前の冷たい河の流れは思った以上に速く、姉とクオンヌンは父から泳ぎの特訓を受けてはいたものの、それでも泳ぐには危険過ぎて、ましてや母は泳げませんでした。しかし、世界中の聖徒たちの祈りの炎が燃え上がり、神の御腕が動く瞬間がここにやってきました。

(つづく)(名前は全て仮名です)



北朝鮮の女性兵士



クオバン・S牧師

英国

8月2日、オンライン・ジャーナル「BMJグローバル・ヘルス」は、世界の男女比の状態を発表しました。調査は昨年、世界204カ国で約33億人の子どもに行われました。2030年には、約470万人の男児が少なくなるであろうと予測されています。さらに2100年になれば、570万人から2千20万人の男児が女児より少なくなるであろうと予測されています。その理由は出産前の性別選択が進み、墮胎が安易に行われるようになるからだろうと予想されるからです。該当国としてインド、ベトナム、中国がとくに挙げられました。男女の誕生バランスが崩れれば、性的犯罪をはじめさまざまな社会的問題が起こり、国家間の問題だけでなく世界的問題ともなります。お祈りください。

ブラジル

プロテスタント教会牧師であり歌手でもあり、そして国会議員を務めたフロルデリス・ドス・サントス容疑者は夫と共謀し、数人の子どもを殺害したため逮捕されました。夫婦には4人の子どもがいますが、他に50人のストリート・チルドレンを養子に迎えていました。夫婦間には経済問題が原因で争いが絶えなかったようです。2019年6月16日には、実の息子が父親を銃で撃ったと言われます。デイリー・マイル日刊紙によれば、その時に6人の養子と実子、それにサントス容疑者の姪が逮捕されました。サントス容疑者は1998年に結婚し、翌年教会活動を開始しました。サントス容疑者はリオ・デ・ジャネイロのアルメニア人地区の出身で、彼女は2009年以来、当局によって動向が撮影記録されていました。また彼女は2019年から社会民主党(PSD)の国会議員でもありました。ブラジルのためお祈りください。



印刷されたロマ語聖書

ドイツ

中央ヨーロッパと東ヨーロッパには、シンティ語とロマ語を話す人々がいますが、彼らの多くは読み書きが不得手であると言われていました。このほどドイツで、彼らのために彼らの言語の聖書翻訳が初めて完了し、8万冊のロマ語聖書が印刷されました。この翻訳作業はロマ語作業翻訳チームが協力し27年の年月を経て完成しました。新約聖書は2011年に完成していましたが、全聖書が完了したのは今回初めてです。ロマ語翻訳チームは、そもそも1994年マールブルクにある「ディアコニッセ・マザーハウス」によって始まりました。この働きはシスターたちがロマ族の子どもたちに、イエス・キリストの福音を伝えたことから始まりました。作業の背後には約120人の祈りと捧げ物の支援者の支えがありました。ロマ語を話す人々に、母国語で聖書を読み聞いて欲しいという熱い願いが実現しました。

ナイジェリア

8月14日ナイジェリアのチボクで、7年前に「ボコ・ハラム」によって誘拐された女生徒が釈放されました。ナイジェリア日刊紙「PMニュース」によれば、事件は2014年4月14日、イスラム教過激派組織「ボコ・ハラム」が女学校を襲い、276人の生徒を誘拐したことから始まりました。すでに110人以上は釈放されていましたが、まだ多くが誘拐されたままの状態です。どう

ぞ、お祈りください。

アフガニスタン

世界でのクリスチャン迫害度第2位のアフガニスタン(国際宣教団体オープン・ドアーズの2020年調査)は、国全体が混迷の渦中にあります。クオバン・S師は以前ムスリムでしたが、インドでイエス・キリストに出会いクリスチャンになりました。祖国で生活することができなくなった彼は、その後イランに出て働き、そしてドイツへ渡って神学校へ進み現在牧師として仕えています。彼はアフガニスタン情勢について次のように語っています。



カブールの検問所

クオバン牧師の両親はムスリムで、息子がクリスチャンになったことを聞いた時、父親は「待て!それは絶対に許されないことだ。今後は一切互いの会話をはじめ親子と親族間の交わりを禁じる。」と言いました。その後クオバン師は13年ほどアフガニスタンで生活しましたが、タリバンの脅威は非常に大きなものであったと語っています。タリバンはアフガニスタンだけでなく西側諸国内にも、インターネットによる緊密なネット網があり、西側の人々は発言の最大の注意を払わなければならないと警告しています。ムスリムからの改宗者はタリバンにとって裏切り者であり、決して容認できません。キリスト教への改宗者で信仰を告白する者は、例外なく死刑となります。したがって多数のクリスチャンは恐れをいだき、地下に潜伏して生活しています。

イスラム教過激思想に固まっているタリバンは、クリスチャンを見つけ次第「石打ち刑」にし、見せものとしています。それによって人々に恐怖心を募らせ、イスラム信仰から離れないよう、シャリア(イスラム法規)に準じて生活することを強制しています。クオバン牧師は、現在残っているアフガン人は前政権への腐敗と失望、そしてタリバンへの恐怖心のもとに置かれていると語っています。また多くのフェイクニュースが飛び交い、どこにも真実の情報があるか分からないと警告を発しています。たとえば8月20日、「229人の宣教師が処刑された」(アフリカ、J.K.チファアア発信)というニュースが世界に拡散しました。しかし全くのフェイクニュースでした。クオバン牧師は、現地では多数のクリスチャンが恐怖に中に残されており、お祈りをしていただきたいと声を大にして語っています。なぜなら残されたクリスチャンたちは、タリバン政権下で最悪の事態が起こることが予想されるからです。現在アフガニスタンには、数千人のクリスチャンがいると思われます。彼らは皆、ムスリムからの改宗者です。どうぞ、とりなしの祈りをお願いします。

ロシア

西シベリア・サマラ市はヴォルガ川沿いにある美しい町ですが、今夏そこにある長老教会は司法当局から会堂を取り壊すよう命じられました。その理由は、建物が違法建築であるということです。サマラ司法当局は2ヶ月以内に、レンガ造りの会堂を取り壊すよう命じました。長老教会とロシア福音アライアンス同盟は、それに対してサマラ建築のドミトレ・アサロウ局長に抗議文を送りました。同局長は2014年、長老教会に建築許可を出していません。どうぞ、お祈りください。

ザンビア

南アフリカのザンビア共和国(旧イギリス領のローデシア)では、このほどセブンスデー・アドベント信者のハカインデ・ヒチレマ氏が新大統領に選出されました。同教団にはザンビア人口約1千800万人のうち、約135万人の教会員がいます。59歳の新大統領は選挙で59%の票を獲得し、エドガー・ルング前大統領を抑えて新大統領に選ばれました。ヒチレマ新大統領は貧困層出身で、奨学金を得て大学で学んだ苦勞人です。その後、彼は英国バーミンガム大学へ留学し、経済学を専攻しました。帰国後は起業家として不動産管理会社を起こしていました。セブンスデー・アドベント教会と他のキリスト教会との違いは、安息日は日曜日ではなく土曜日としていることです。世界には約2千150万人の信者がいると言われます。

ハイチ

8月14日、ハイチを襲った大地震は甚大な被害をもたらしました。このほど現地教会と救助諸団体は、カリブ海ハイチの近



レス・カイエス市の崩壊した教会堂

況状態を発表しました。震度7.2の地震と熱帯低気圧「グレース」によって、2千200人以上の死者を出し、何十万人もの人々が家屋を失いました。南ハイチ・バプテスト教会連盟だけで255の建物に大きな損害が出ました。それはディオーツェセの39の小教区です。レス・カイエス市にある救援団体「ハンディーキャップ・インターナショナル」のリハビリセンターも大きな損害を受けました。ドイツの「クリストツフェル盲人宣教会」の発表では、身体障害者、とくに盲人の間では多くの被害者が出ました。現在、国際救助団体「サマリタンズ・パース」はじめ、他の国際宣教団が懸命に救助支援活動を行なっています。どうぞお祈りください。

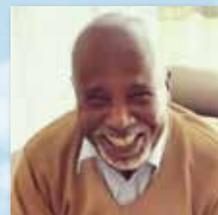
イタリア

世界中で問題となっている「安楽死」は、イタリアでは将来的に国民投票による合法化の動きが進んでいます。イタリアの新聞「ラ・レプブリカ」によれば、すでに50万人以上の署名が集められ、国民投票の実行が叫ばれています。この運動の動きは、2006年に治療によって快復の可能性がなく召された左派政治家ルカ・コシオニによって始まりました。現在のイタリアで

は、刑法579条で犯罪者には安楽死に同意できる条項がありますが、一般的に安楽死は法的に許可されていません。カトリック教大司教ヴィンツェンツォ・パグリア師は、この運動に対して猛反対しています。どうぞ、お祈りをお願いします。

エリトリア

国際人権委員会IGFMとキリスト教出版社「イデア」は、9月の「囚われ人」として2人の牧師を挙げました。ギルメイ・アラヤ牧師(75歳)とサムエル・オクバミチャエル牧師(74歳)です。2人の聖職者はすでに引退していましたが、7月下旬のある夜中に警察に理由なく逮捕され連行されました。その後、2人は首都アスマラで最も重い囚人用の「ヴェンゲル・メルメラ犯罪捜査センター」に移されました。エリトリアでは信仰の自由はなく、このように突然逮捕され、連行されるケースが多々あります。そして非人道的扱いを受ける事態となっています。IGFMと「イデア」は2人の速やかな釈放を訴えて、エリトリア大使館へ暫定政権を率いる独裁者イザヤス・アフェヴェルキ氏へ文書で抗議するよう、世界中の信仰者へアピールしています。



サムエル・オクバミチャエル牧師

ウガンダ

インターネット通信「モーニング・スター・ニュース」によれば、東ウガンダの83歳のクリスチャン女性は、9月中旬イスラム教過激派によって攻撃され、病院で治療を受けています。彼女の名前はハリエット・ナムガンザ姉妹で、地元の牧師からイスラム教から回心した18歳と22歳の2人の青年を家にかくまうよう頼まれていました。そのため不審者が夜10時ごろ突然、家の中に入ってきました。2人の青年は屋根裏に隠れましたが、老婆のハリエット姉妹は隠れることができませんでした。侵入者たちは青年たちの姿が見えず、老婆しかいなかったことから、「この老婆を殺せ!」と叫びました。しかし一人が、「彼女は高年齢だから殺すのではなく棒打ち痛めつける」と言い、彼女に暴力を浴びせて去って行きました。しばらくして彼女は、助けを求め病院に運ばれ治療を受けています。彼女は夫ともに2010年に、イスラム教からクリスチャンに回心しました。このように改宗者は、裏切り者として迫害を受けています。信仰は命がけです。どうぞ、お祈りください。



入院中のナムガンザ姉妹

ミッション・宣教の声 *The Voice of Mission*

〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-3-10 V I P 関西センター 5F
TEL:06-6226-1334 FAX:06-6226-1336
E-mail: senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041



■ 季節は早くも秋となり美しい紅葉を見せてくれています。皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも祈り覚えてくださり、感謝とお礼を申し上げます。

■ 日本のコロナ感染者数は幸いにも減少傾向にありますが、油断大敵。第6波が来襲しないようお互いに十分注意を払い、キリストの福音を宣べ伝えましょう。

■ 今号の海外邦人宣教はロンドンからです。英国のコロナ禍の中でも、信仰を守っている兄弟姉妹に主のお守りを祈ります。感謝。